

## 秋山Ⅱ 二岐山



日差しの差し込む紅葉の林道を行く

平成28年10月23日(日)、福島県天栄村と下郷町の境に位置する二岐山に行ってきた。二つに割れた山頂は、ほほえましく覚えられやすい山(別名:おっぱい山)といえませんが、残念ながらその山容はガスの中でした。

朝のニュースで、「女性初のエベレスト登頂に成功した田部井淳子さんが、今月の二〇日に腹膜のガンのため死去した」という訃報と、「山で遭難した男性が13日ぶりに救助された。登山道を外れて滑落し、沢の水を飲んで生き延びた。」という二つの報道がありました。田部井さんのご冥福をお祈りすると共に、幸運にも生を実感した男性の詳細な話をお聞きしたいと思います。

今日の二岐山は、那須連山の三本槍岳から福島県に連なる小白森山、二岐山と続く山です。今日の参加者は13名で、2台



薄井 CL より本日のコースのレクチャーを受ける

の車に分乗して行く。黒羽支所から白河、羽鳥湖を抜けて、二岐温泉登山口に向かう。山は丁度色づき始めて、日の光に照らされて、キラキラ輝いている。

駐車場に着き、車を降りると風が冷たくもうすぐ来る冬を意識する。防寒対策をして出発する。初めは二俣川に沿って登り出す。途中で御鍋

神社に参拝する。この神社は林道から少し下り二俣川のほとりに立つ。どこからか「料理の腕前が上がるようにお参りするんだよ。」なんて声が聞こえて来る。直ぐに林道に戻り登山口に着く。車が3台、ここまで入れるようだ。しかし、私たちは一山縦走なのであまり関係無い。山は紅葉が見頃を迎え、ウリハダカエテ・イタヤカエテ・ブナ・ヤマウルシ・ミ



「料理が上手くなりますように・・・」御鍋神社 12-1

ナロの樹林帯を進む。「アスナロは明日こそは檜になろうとするが、決してなることは出来ない悲しい木だね。」という意見と、「希望を持って一生を過ごすのだから幸せな木かもしれない。」という意見があり、色々な考えがあるなと思いました。

この頃から、次第に雲行きが怪しくなり、折角の紅葉と青空の両方を楽しむ事が出来なくなる。ブナ平から男岳へとほとんど霧がかり、木々の水滴となり落



本格的な上りになってきました

ズナラ・ナナカマド・トチノキの樹木が赤や黄色に変わり地面に落ちたりして私たちの目や足を元々楽しませてくれる。登り始めてまもなく「八丁坂」で、ミズナラとアス



だんだんガスが・・・

返す。女岳山頂は全く展望が無く、記念写真を撮り直ぐに下山する。

今日の一歩の難所、「地獄坂」にかかる。トラロープがあるが岩に木の根に落ち葉に少しの雨と悪条件が揃い慎重に降りる。まるで筋トシをしているようだ。途中で、お昼の時報があり、お弁当にする。佐



ガスと強風の二岐山（男岳）山頂

下し私たちをいじめる。

頂上は、快晴であれば360度の大パノラマで、福島県内の山並みが待っていたのですが、残念ながら視界が全く加えて寒さと風とで早々に女岳に向かう。一度下り笹平から上り



こちらは女岳 展望なし



地獄坂の始まりです



実はこんなゆとり無かったのですが・・・

藤さんが焼石岳のみやげ「コウダケ」の炊き込みご飯を差し入れてくれた。(前回の斎藤さんの報告書が実現したことに驚き・・・) 美味しくいただく。

雨音が聞こえてきたので、早めに昼食を切り上げ行動開始。山は紅葉と緑の葉と白樺のコントラストが美しい。女岳登山口を過ぎ林道に入ると青空が見えてくる。足取りも軽くなりスピードアップ。そして今日の最後の締めは、「大丸あすなろ荘」にて温泉に浸る。早く出発した分焦らずにゆとりの山行となった。

(伊藤秀子 記)



これぞ幻の「コウダケ」の炊込みごはん





ブナの林の紅葉



3人でブナの木のブランコ



紅葉と白樺とのコントラスト

- と き 平成 28 年 10 月 23 日 (日)
- ところ 福島県二岐山 (男岳 (△1,544.3m、女岳 (1,504m))
- てんき 晴れ 山頂ガス小雨強風
- おあし 1,000 円
- あ し 荒木、伊藤車
- 参加者 薄井 (CL)、海津 (SL)、伊藤 (報告)、頼高 (記録)、佐藤 (会計)、伊藤 (撮影)、荒木、市村、坂本、藤田、斎藤、鴛巢、久松
- コースタイム
 

黒羽支所＝二岐温泉登山口 P—御鍋神社—男岳登山口—ブナ平—男 岳—					
05:00	06:25~35	07:35	07:45	08:35	09:45~10:00
女 岳—地獄坂 (昼食)—女岳登山口—あすなる荘 (入浴)＝黒羽支所					
10:25~30	12:10~30	13:00	14:00~45	16:15	

